

宇都宮と沖縄にデポ

拠点配置を最適化

アイカ工業

運転者の労働時間削減

アイカ工業は22日、北関東向けの配送拠点「宇都宮デポ」（栃木県市貝町）と沖縄向けの配送拠点「沖縄デポ」（沖縄県浦添市）を新たに設置した、と発表した。物流拠点の配置を最適化して効率化を図り、ドライバーの労働時間を削減し、運送事業者の働き方改革に貢献する。（高橋朋宏）

宇都宮デポは関東地方で8番目の物流拠点で、小野（京都大田区）が運営する。



宇都宮デポは関東地方で8番目の物流拠点で、小野（京都大田区）が運営する。危険物倉庫を併設し、化成品などの取り扱いや保管が可能。21日に運用を開始した。

これまで栃木県には、群馬県太田市と埼玉県白岡市、離島向けの船舶中継など多様なニーズに応える（沖縄デポ）の各拠点から広域配送していたが、宇都宮デポの新設により、定期便の配送エリアが拡大。茨城県までの配送も計画している。

また、共同配送事業者との業務提携を加速することで集配効率を高め、サービ

△施工物件関係の配送にも対応できるようになる。また、離島向けの船舶中継など現地の多様なニーズに定めるサービス拠点として活用し、顧客利便性の向上を図る。

沖縄県内への輸送ルートは現在、主に福岡港を利用してはいるが、今後は大阪港、名古屋港ルートも利用する。海上輸送ルートの選択肢を広げること、天候不良時や災害時に代替輸送計画が立てやすくなる。

海上輸送事業者との連携を強化し、船舶の運航状況や幹線コントロールなどの情報の一元管理を推進。到着情報を直接把握し、納期の回答精度を上げる。

CRE

埼玉・川越に物流施設

来春竣工 分割使用も対応



シアーグループは16日、物流施設「ロジスクエア川越Ⅱ」（埼玉県川越市）の建設に着手した、と発表した。敷地面積が1万4400平方メートル、鉄骨造りの2階建てで、延べ床面積は1万4780平方メートル。2019年5月末の竣工を予定している。

（圏央道）の坂戸インターチェンジ（IC）より4キロ、関越自動車道の鶴ヶ島ICからは7キロに位置する上、国道254号へのアクセスにも優れる。開発予定地は隣接する2区画で構成され、東側区画の1万2100平方メートルに2階建ての建物を造り、西側区画の2300平方メートルを駐車スペースに充てる。倉庫部分の基本スペックは、外壁が金属断熱サンド

共同幹線輸送を開始

キユーピー 持続可能な物流網

化、フェリー（オーシャントランス）の定期便を利用することによる配車工数の削減、二酸化炭素（CO₂）排出量の削減（個社での輸送に比べて62%以上低減）

3社は、この結果を踏まえて、共同幹線輸送スキームを22日から本格的に稼働させることを決定。対象貨物は、物流機器（JPR）、調味料・加工食品など（キ

・ボディソープなど（ライオン）で、関光汽船が全工程の輸送手配を担う。なお、参加を希望する企業への門戸は業種業態を問わず開いていく方針だ。

新日鉄興和不動産（永井幹人社長、東京都港区）は8日、関西エリア第1弾と

兵庫・尼崎に 埼玉